

## 平成30年度 第2回岡山県グリーン購入対策会議 【議事概要】

日時：平成31年2月21日（木）

13:30～14:30

場所：ピュアリティまきび

2階 エメラルド

### 1 開 会

司会：循環型社会推進課 古川総括参事

### 2 開会あいさつ

小林環境文化部次長

### 3 議 題

#### (1) 再生品使用促進指針及び岡山県エコ製品の判断基準の一部改正について

＜循環型社会推進課 中藤副参事＞

※資料（再生品使用促進指針及び岡山県エコ製品の判断基準の一部改正について）説明

#### 【質 疑】

＜委 員＞ 木材・プラスチックの再生複合材製品について、循環資源の基準が追加されているが、なぜ、このような基準が追加されたのか、具体的にはどのような製品であるか。また、把握を含めて、使用後に、どのように回収・処理していくのか。

＜事務局＞ 昨今の廃プラスチック問題もその要因ではないかと考えている。  
今回の国の基本方針の改定にも、プラスチック問題に着目した内容が多々あったところである。  
基準の対象は、建築の外構工事や、公園の園路広場工事などに限定しており、具体的には、公園の園路などでよく見る擬木の低い柵のようなものなどが想定される。  
また、使用後の回収・処理方法については、国の方針の中にも、配慮事項として、撤去後、回収して再生利用するシステムがあることなどをうたっている。

＜委 員＞ 木材・プラスチックの再生複合材製品に限らず、使用後の回収・処理について、その運用は、難しい。エコ製品全体に至ることでもあり、今後、検討いただきたい。

・判断基準について、原案どおり改正することが適当と判断された。

#### (2) 岡山県エコ製品の認定審査について

＜循環型社会推進課 中藤副参事＞

※資料（岡山県エコ製品の認定審査について）説明

## 【質疑】

### ・新規申請案件について

< 委 員 > きびテコラは、雑草が生えづらい。また、お墓周りの防草などにニーズがあるとすると、もっと幅広く売ることができるのではないか。

< 事務局 > きびテコラのエコ製品認定申請までの道のりとして、お配りしている産業労働部作成のパンフレットに掲載されているエコプロダクツ製品化支援事業を活用し、実用化に向けた製品改良などを行いながら、また、補助金等のサポートを受けながら、エコ製品認定申請に至ったものである。

事業者から聞くかぎり、量販店等へ卸すまでには至っていないのが現状で、今後、販路開拓が課題となると考えられる。

< 委 員 > きびテコラの製品化に際しては、製造機械に携わってきた。廃瓦を活用し、実用化の製品を生み出していくというテーマで、3～4年前からサポートを行い、今回の申請に至った。

今回の用途にある土地改良剤として、どう使っていくのか。農業用（田）に使うとしても、産業廃棄物が原料となると、地域のとらえ方、イメージなどが気になるところであるが、これがモデルとなって、売れていく方策を見つけていく必要がある。

### ・更新申請案件について

< 委 員 > 更新申請対象のうち、10件が廃止・更新されていないという説明だが、よく売れている製品には、どのようなものがあるか。

< 事務局 > 昨年度認定した「エコベティ」などが、種類が豊富で、使い勝手が良いので話題になっていると思われる。

< 委 員 > 「エコベティ」は、どこで購入できるか。ネット販売も行っているか。

< 事務局 > 目にするのは、駅構内の販売所に置いているのを見かける。  
また、端切れを材料として使うので、ジーンズなどの新品を数多く製造する必要があり、ネット販売のような品切れを出さない大量に扱う販売システムになじむかと言われれば、疑問がある。

< 委 員 > 「エコベティ」は、倉敷美観地区の中で販売していた。

< 委 員 > 売れない理由として、・価格の問題（割高）、・品質の面、・再生品（産業廃棄物）というネガティブな印象、・使う人に情報が伝わっていない が考えられる。

エコ認定製品の使用促進について、公共資材のような公共調達については、優先的に使用されるなどのシステムができているが、民生用の製品については、そこまでできていないのが現状である。

<委員> 5年に1回の更新だが、その間の基準を満たしている確認をどのように行っているか。

<事務局> 毎年度、1回、岡山県エコ製品認定基準適合状況報告書を提出いただき、新規認定時と同等な確認を行うと同時に、製品の製造実績を確認している。

<委員> エコ製品がどの程度売れているのかという実績は、出せるか。

<事務局> 岡山県エコ製品認定基準適合状況報告書の報告内容に、製品単価及び製造量の記入欄があるが、製造実績を確認することを目的に事業者から求めており、金額的な実績、いわゆる売上額を確認するために求めておらず、売り上げ実績と言う形でまとめていないのが現状である。

また、公表ということになると、エコ製品認定の趣旨から慎重に検討する必要があると思われる。

<委員> あくまでこの審議会の審議に限りの公表ということで、事務局にご検討いただきたい。

- ・申請のあった製品について、幹事会などの意見も踏まえた上で、認定することが適当と判断された。

### (3) その他

<委員> エコ製品認定制度とは別に、エコ事業所の認定制度があるとは思いますが、海外では、環境に着目した認定事業者にならないと、入札資格が取れないとも聞いている。

岡山エコ事業所としての優遇措置も、今後、考えてみてはどうか。

## 4 閉 会